

旅だんご スペシャル インタビュー

アーバンアルピニスト 園山 のぼる Noboru Sonoyama

登らない登山家を目指し、都内のごく限られたエリアで活動するアーバンアルピニスト。2018年には、文京区の陸義捐内にある標高35メートルの富士見山への登頂に成功。今後、代官山、愛宕山、飛鳥山へのアタックを予定している。勤務先である青山ツインタワーのエレベーターで登ることで、日々のトレーニングを行っている。



登れない山は、登らない 目指すのは、平らな山のみ

東京23区内に存在する山への登頂に挑戦し続ける、アーバンアルピニストの園山のぼる氏。その登山の方法は、「なるべく登らないで登頂する」というユニークなもの。いったいこの人は、何をめざしているのだろうか？

写真：TOMAKI 文：前田とまき



取材場所の LODGE に現れた園山氏は、アーバンアルピニストという肩書きに似合わない、小ぶりのバックパックと、ワークマンの撥水ジャケット、ニューバランスのスニーカーという軽装で現れた。聞けば、真冬の登山の時もこの装備で挑むという。いったい、アーバンアルピニストの活動とはどういうものなのか。この人は何を考えているのか。バカなのか。インタビューを敢行した。

アーバンアルピニストとしての こだわりについて

旅だんご編集部（以下、TD）：この度は、わざわざ Yahoo! Japan の LODGE まで呼び出してください、ありがとうございます。

園山のぼる氏（以下、園山）：いえいえ、和田さん^{※1}のミニサイトづくりのワークショップがあったものでそのついでに。あと、LODGEってなんか登山っぽくないですか？

TD：さっそくですが、「アーバンアルピニスト」

あなたの旅を応援する旅メディア

「旅だんご」は、旅が好きな人のためのウェブメディアです。読めばきっと、あなたも旅がしたくなる。

<http://tabidango.com>

という職業の活動内容について教えていただけますか？

園山：いや、これは職業というより、マインドですかね。「山に登りたい」っていう想い。「けど、登るのってキツイよなあ」ってのもあり、結局なるべく山に登らずに登頂を目指すっていうアーバンアルピニストを名乗るようになりました。

TD：登らないんですか？

園山：ええ、登らずに済むのなら、極力登りません。極力交通機関を使ったり、ロープウェイやエスカレーターを活用したり。平らな山がベストですね。

登らない山登りとは？

TD：平らな山なんてあるんですか？

園山：ええ、結構ありますよ。例えば僕は、毎日勤務先の青山のビルにエレベーターで登ってます。青山も、自分の中では山です。あとは、代官山とか、渋谷の神山とか。

TD：これまで登った中で、「これは大変だった」という山はありますか？

園山：そうですね、六義園の中にある富士見山ですかね。標高が35メートルもあるのと、そこまで行くのに300円の入場料を払わなければいけなかったので。

TD：今後、登頂を目指している山はありますか？

園山：東京北区にある飛鳥山に登ろうと思ってます。あそこ、山頂までモノレールで行けるんですね。

TD：がんばってください。

※1 ミニサイト作り職人として、書籍も出版されている和田さん。この記事は、和田さん主催の「ミニサイト作り作業日」のイベント内で作成した、一人二役の自作自演インタビューです。

●
旅だんご
あなたは旅が、したくなーる

© Tabidango All Rights Reserved.